

# 児童、生徒に雨がっぱ

## 岡山の大学校寄贈



鳴原副市長に雨がっぱを手渡す  
的野理事長（左から2人目）

## 線量高い霊山、月館へ

岡山県新見市の公設国際貢献大学校は28日、ホットスポットと呼ばれる局地的に放射線量の高い地域がある伊達市霊山地区や同月館地区の子どもたちのために、同地区内6小学校2中学校の児童、生徒全員に行き渡る919人分の雨がっぱを同市に寄贈した。

同大学校は、今回の震災で南相馬市の要請を受けて同市民が数多く避難した伊達市梁川体育館に職員を常駐させ、避難所の運営協力を行ってきた。同体育館は今月末で避難所としての役割を終えることから、お世

話になった恩返しにーと雨がっぱを寄贈した。同時に全員分のヒマワリの種や、除染に使うデッキブラシも各校に5本ずつ寄贈した。

同日は的野秀利理事長、淵上真学務課長補佐、平井篤志隊員が市役所を訪れ、鳴原貞男副市長に手渡した。その後、的野理事長らが各学校に直接配布した。

同大学校は、新見市が閉校した小学校を活用し2001（平成13）年に設置。国際的な人道支援に関する試験研究や人材育成に取り組む研修機関。岡山県と連携し、国際協力専門要員の人材育成・研修事業や「もたらそう国際救援隊」による国際人道支援事業などを行っている。